

オタクの価値観を知る

『オタク学入門』

「オタク」はハッカーという言葉に似て、一般的には単なる蔑称に思えても、実のところは判断が付きにくい言葉である。今までは内向的で人とのコミュニケーションを苦手とするタイプをイメージし、彼らに対する蔑称だと思っていたが、さもありなん。ハッカー本来の意味のように、オタクはある意味の求道者を指す敬称でもあるようだ。インターネットのホームページでも自らをオタクと称する個人が現れ、海外ではOTAKUとして、日本

語のまま受け入れられている。マスコミから受けるイメージそのままにオタク像を抱いている方は、まず読んでみてほしい。オタクがまるで称号のように思えてくるだろう。オタクの正体を探ることから始まり、オタクの視点の研究、オタク文化論まで、オタクに関する鋭い洞察は賞賛に値する。映画監督のタランティエノもカメラマンもオタクであると根拠を持って指摘されると気持ちがいい。70～80年代のコンピュータ文化におけるハッカーの存在と同じく、80～90年代の世界に通ずる日本文化

(ジャパニメーション、特撮部隊もの、コミック、ゲーム)に占めるオタクの存在は大きい。一般認識の外側にある独自の価値観で存在しているからこそ、自らをばっかりなくオタクと名乗るのである。



岡田斗司夫著
太田出版発行
235頁
1400円
ISBN:4-87233-279-2

オタクとハッカーの称号

菊地宏明 Hiroaki Kikutchi

オタクが足を運ぶ店

『東京オタクィススポット』

ホームページを読んでいると、オタクかな?と思える人が作ったページほど面白い。うちのペットです...などとたわいのない内容を書いている人のページより、ページの中に奥深い(ただならぬ)雰囲気をもっていることが多く、情報量もすごい。そうすると、必然的にそんなページにばかり目が行ってしまい、いつしかオタク系ホームページのマニアになる。残念ながら、WWWでは情報を得るだけで終わってしまう。オタクページで紹介されたディープな世界を

さらに満喫したいなら、現実には仲間が集まるスポットへ行くしかない。本書は、東京にあるオタクが推薦しそうなスポットを500件以上収録したショッピングガイドである。カテゴリー別に紹介されているが、最初がなんと、インターネットカフェなのだ。やっぱりネットサーファーはオタクが多いのか。そのほか、コンピュータパーツ、マニアックなCD、同人誌、オーダーメイドのコスプレ衣装、ボディアート、ミリタリー、格闘技、風俗など幅広くショップを紹介する。興味があるけど、どこで入手できるか知らないものがたくさん紹介されていて、見ているだけでも楽しい。地方版も作ってほしいところだ。



OTASPO編集部編
技術評論社発行
254頁
1480円
ISBN:4-7741-0288-1

古瀬幸広 / 廣瀬克哉著
岩波書店発行

209頁
650円
ISBN:4-00-430432-6



自由を求めるハッカーたち

『インターネットが変える世界』

ベストセラーになった『インターネット』に続いて発行された岩波新書のインターネット関連書となる本書は、インターネットが創られていく過程を記しており、インターネットの内部的なしくみではなく、インターネットがどんなものなのか、概要を知るのに向いている。その中でも初期のインターネットを支えた人々をハッカーと呼ぶ箇所がある。もちろん優れた人としての称号として呼んでいるのだが、まさにそのとおりだ。マスコミはこぞ、「時代はインターネット」と持ち上げてはいるもの

の、それを作り上げたのは、政府でもメーカーでもなく、あまたのハッカーたちであることを再認識してほしい。今や、政府や政党が立ち上げるWWWサーバーもTCP/IPというプロトコルをベースに動いているが、84年に出されたCCITT(現ITU)の国際標準の通信プロトコルOSIの勧告を受けて、日本もOSIを採用するという政府方針を出していた。なぜ、方針を打ち出したにもかかわらず、インターネットのプロトコルがOSIではないのか。その答えは作り上げた人たちが握っている。ほかにもいたる所に見えかくれず、先人たちの自由を手にしようとする行動力には感服してしまう。ハッカーとインターネットの関係を再確認させられる一冊だ。

インターネット普及の度合い

『インターネット白書'96』

本書は日本インターネット協会がまとめた、インターネットの現状報告である。会社でインターネットに関する報告書を作るときに使えるようなデータが多数収録されている。イ

ンターネットに接続するホスト数の増加、プロバイダーの増加などの資料はしばしば見かけるが、利用者の年齢層、男女比、年収などの利用者層を推定できる情報もある。ちなみに現在の利用者層は、インターネットが普及し始めた80年代に20代だった年齢層（現在の30代）が主体となっているようだ。これは、インターネットを支えて発展させてきた技術者や研究者の世代と重なる。ハッカーといってもいいような能力の持ち主たちが育て上げたインフラや文化が、

ここまで成長したのかと実感できる。インターネットはまた急速な普及によっていろいろな使い方がされている。新聞社はWWWでニュースを提供し、政党や自治体も情報提供の手段として使いはじめている。そうした社会的動きも取り上げられているほか、調査集計データやインターネット関連の組織紹介もあり、資料としての価値は大きい。インターネットの全体像をつかむには適している。ただし、インターネットカルチャーは、あまり取り上げられてない。



日本インターネット協会編
インプレス発行
239頁
2800円
ISBN:4-8443-4739-X

ネットワーク技術の解説書

『インターネット参加の手引き 1996年度版』

インターネットとハッカーの関係や、ハッカーが創り上げたインターネットがどのように育ったかについては、先の2冊でわかってもらえるだろう。だが、ハッカーたちがどんな技術を持っているのかを知るには、この1冊がいい。インターネットに参加するための技術の手引きをする本書は、ネットワーク管理者が読むレベルの内容である。接続、ネットワーク管理、セキュリティ、各種アプリケーション、次期技術としてのIPv6やDNSv6、実験プロジェクトなどがまとめられている。インターネット関

連技術をまとめた参考ドキュメントや、掲載ソフトウェアの一部を収録したCD-ROMが付属している。ネットワーク管理者はぜひ手元に置いておきたい。これらの技術資料の大部分はRFC (Request For Comments) というドキュメントの体系をもっている。RFCは、インターネットコミュニティで、インターネットを使ううえでこうしたらいいという提案を考え、ドラフトとして公開し、広く意見を求めていながら標準化していったものだ。いわば、ハッカーたちが現場でたたき上げながら作り上げていったものだといえるだろう。優秀なハッカーたちが次期技術や実験プロジェクトを担っている。ハッカーの技術力の高さを教えてくれるだろう。



WIDE Project編
村井 純 / 吉村 伸監修
共立出版
365頁
4800円

武藤佳恭著
共立出版
128頁
1200円
ISBN:4-320-02811-2



RFCに基づいたマナー集

『エシックス 高度情報化社会のネチケット』

急速にインターネットというインフラが広まったためか、技術的な話題が先行してインターネットを使うときの倫理観がついてこないケースがよく見られる。取り引き先に電子メールでの連絡をせがまれて利用を開始したが、見積書などの書類を第三者に見られたくないと言いながらたくさんの文書をそのままメールで送るなど、インターネットではいけないことを平気でする利用者も増えているのだろう。インターネットでは約束事をみんなで検討しながら決め、運用している風潮があり、それは先に紹介したRFCという文書

にまとめられている。その中のRFC1855は、インターネット技術特別調査委員会で作成されたインターネットでのエチケットをまとめたガイドラインである。本書では、RFC1855を個人対個人、個人対多数のコミュニケーションの項目に分けて、わかりやすく説明している。1つの提案を1頁で説明しながら、見開きの片側の1頁でイラストを補足する構成なので、スイスイと読める。ちょっとしたマナー集として会社に数冊置いて回覧するとよい。ただ、エンドユーザー向きで、管理者向けのガイドラインは提案が書かれているだけで説明が省かれているのが残念である。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp